


**United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization (UNESCO)**
**公益社団法人日本ユネスコ協会連盟の評議員会開催**

2014年1月18日(土)、日本ユネスコ協会連盟の評議員会が行いました。

1. 東日本大震災における子ども支援募金が、小1～高校生まで1114名を対象に行われています。また、ユネスコ協会就学支援奨学金は、1985名に給付されています。これからも引き続き支援の輪を広げていきましょう。
2. ユネスコスクールは、2013年9月30日現在、647校となりました。今後、ユネスコ協会との連携が大きな課題となります。
3. 書きそんじはがきキャンペーンは、163のユネスコ協会が参加しています。
4. 日本を象徴する国内最高峰の富士山(3776m)が、ユネスコの世界文化遺産に登録されました。正式名称は「富士山—信仰の対象と芸術の源泉」です。
5. 富士山の世界遺産登録に続き、「和食；日本人の伝統的な食文化」が無形文化遺産に登録されました。日本の食文化が国際的に評価され、外国でも和食ファンがさらに増えることはうれしいことです。
6. 天明鑄物の継承を目指す「天命鑄物伝承保存会」(若林洋一代表)の活動が、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟の「プロジェクト未来遺産」に登録されました。
7. 2014年、ESD(持続可能な開発のための教育[Education for Sustainable Development]の頭文字)の世界大会が開催されます。今後もESDについては、情報交流をしていくことが大切です。
8. 女性パワーの活用をより有効に発揮させていく委員会が立ち上がりました。今後、いろいろと提案を期待します。以上、活発な意見交換が交わされました。今後も、開倫ユネスコ協会へのご理解、ご協力をよろしくお願い致します。



第32回評議員会の様子



前ユネスコ事務局長 松浦晃一郎氏

## 足利市バスケットボール協会長杯大会

「一所懸命賞」 授与式

岡田忠治

1月26日、足利市民体育館で開催された足利市バスケットボール協会長杯大会の閉会式後に、「一所懸命賞」の授与が行われました。

この「一所懸命賞」は7年前、足利市内のミニバスケットボールチームのコーチをしていた際、小学校卒業まで競技を続けてきた子どもたちを称えてあげたいと思い、林明夫会長に相談したことから始まりました。

今年度は足利・佐野両地区のミニバスケットボールクラブ員男女87名が表彰されました。

開式の挨拶では、所用で欠席した林会長の代理として、私から「一所懸命賞」について説明の後、「最後まで諦めずに続けたことは大変素晴らしいことです。この式は、6年生の皆さんにとってミニバスケットボールの卒業式です。5年生以下のクラブ員、コーチ、保護者の皆さんも祝福しましょう」と挨拶をさせていただきました。

その後、ステージ上で各クラブごとにコーチの皆さんから選手たちの名前が呼ばれ、一人ひとりの胸に金メダルが掛けられました。コーチと選手たちのハグなど、ユーモラスな様子に会場は拍手と笑い声に包まれました。

また、式の後には6年生を中心に、記念撮影をする光景もみられました。

足利南クラブ（男子）主将 大谷有聖君

1年生からミニバスをやってきて、一番の良い思い出になりました。

足利毛野クラブ（女子）主将 田中 ゆきのさん

2年生から今までやってきたことをすべて発揮して、金メダルをもらうことができ、嬉しかったです。

足利市バスケットボール協会 学童部代表 大谷 彰宏様

私は一保護者の時から、この授与式で子どもたちの笑顔を見続けてきています。「一所懸命賞」のメダルをもらった子どもたちが、中学校、高校とバスケットを続けており、私たち指導者一堂大変嬉しく思っています。今後とも、是非続けて頂けたらと思っています。

